

J M - 4 当施設の人工呼吸器トラブル対策

新日鐵八幡記念病院 看護部

林真理

(はじめに)

人工呼吸器に関するトラブル対策は人工呼吸器を管理する環境によって違いがある
と考える。今回、当施設で発生した人工呼

吸器に関するトラブルの原因と対策について述べる。

(人工呼吸器使用前、使用中のトラブルと原因)

トラブル	原因
サーボ 900C 内回路の吸気フロートランスデューサーを呼気側に呼気フロートランスデューサーを吸気側に接続した。	サーボ 900C のフロートランスデューサーは吸気、呼気全く同型であり見分けがつかない。また、反対にも接続できる。
サーボ 900C 内回路の吸気フロートランスデューサーを逆向きに接続した。	
サーボ 300 の設定変更時、呼吸数だけを減らしたため一回換気量が多くなり吸気時間が延長した。	サーボの一回換気量は分時換気量を換気回数で割るため、換気回数だけを減らすと一回換気量が増加するという、呼吸器毎の特徴が理解できていなかった。SIMV の呼吸数を扱わなかった。
バード 8400 のトリガーセンサーを呼気取り入れ口に接続し、さらに呼気蛇管を接続した。	トリガーセンサーが間違った部分にも接続できる。
バード 8400 使用中、患者の SpO ₂ が低下し実測値が表示されなかった。実際の値も設定値より低い値だった。	モード切替スイッチがカチッとなるまで入っていなかった。看護師の手があたったものと思われる。
加湿器を通らずに患者にエアーが送り込まれていた。	人工鼻用呼吸器回路に加湿器がセットされており、看護師が加湿器を通っていると思い込んでいた。使用中の点検を怠っていた。

(現在行っている人工呼吸器に関する安全対策)

- (1) サーボ 900C など内回路がある呼吸器には物品それぞれに名前か番号を明示した。
- (2) 人工鼻用回路と加湿器用回路を区別した。
- (3) 人工呼吸器回路組み立て時のチェック表を作成し、もれのないように点検できるようにした。
- (4) 誰にでも簡単にチェックできる人工呼吸器使用中の点検表を作成した。
- (5) 人工呼吸器の設定値および呼吸器本体の点検に関して、前の勤務者に確認できるよう各勤務開始時に点検を行うようにした。

(おわりに)

人工呼吸器に関する事故が紙面に載るたびに当施設での安全対策について考えさせられる。点検表を作成して使用中の呼吸器の作動状況や設定などを点検しても、看護師が患者の状態や各呼吸器に対応できる知識と能力を持っていなければトラブルに対応できない。今後、看護師の知識を向上させるだけでなく、整理整頓が事故を早期に発見する環境となるため、人工呼吸器を取り扱う環境の整備と安全に対する看護師の意識の向上を図っていきたい。